

## 2005 年度 小委員会活動成果報告

(2006 年 3 月 1 日作成)

小委員会名	情報連携技術小委員会	主 査 名：岡本修平 就任年月：2005 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：新宮清志
設 置 期 間	2005 年 4 月      ~      2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<p>建築分野における情報の高度利用を実現するためには、企画・設計に始まる建物のライフサイクル全般にわたって高度な情報連携を実現する仕組みの構築が重要課題である。本小委員会はこれまでに得られた情報標準関連の研究成果を基礎として、その建築生産実務への適用性の向上を旨とした調査研究、技術検討等を行い、他の関連組織との情報交換、学会内外への成果の広報普及等の活動を通じて、真の情報共有・連携を実現するための技術の発展、建築生産パラダイムの変革等に資することで、学会としての負託に応えることを目的とする。</p> <p>初年度：建築設計、生産の諸段階における情報連携の実態調査、建設 CALS / EC 関連要素技術の検討、ISO、JACIC、C-CADEC、IAI、土木学会、ECOM 等の活動状況分析ならびに情報交換、研究協力</p> <p>2 年度：情報連携水準のレベルアップの可能性追及と、それに応じた前年度提示課題等の検討継続</p> <p>3 年度：初年度提示課題の検討継続、建築生産情報統合ガイドブック第 4 版・情報連携（仮）企画、執筆</p> <p>4 年度：初年度検討課題の検討継続、成果のとりまとめ、建築生産情報統合ガイドブック第 4 版・情報連携（仮）編集、出版、建築学会大会研究協議会等開催</p>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無	
	岡本修平（清水建設） 今野一富（高砂熱学工業） 岡 正樹（デルファイ研究所） 塩見忠彦（竹中工務店） 清水弘道（アルモ設計） 寺井達夫（千葉工業大学） 松並孝明（大林組） 松本勇市（大成建設） 三雲正夫（自営） 吉田邦彦（愛知淑徳大学）	
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分類体系・用語 WG： JCCS、OCCS、ISO / DIS12006-3、Uniclass 等の分析評価を通じた建築標準分類体系（仮称 AIJ コード WD）の精緻化、JACIC 標準部コード小委員会等との CALS/EC 関連の研究協力（委員 6 名）</li> <li>・建築データモデル WG： STEP、IFC、C - C A D E C、S C A D E C（特に SXFVer3 及び SXF レベル 4）等の建築データモデルの標準化動向の把握分析、部品ライブラリ等の標準化手法の検討（委員 11 名）</li> <li>・図面情報 WG： 建築図面内容の分析、ISO82045（メタデータ標準）、電子納品仕様等の評価を通じた、図面情報の明確化による図書関連の情報連携実現要件の抽出および、関連推奨標準案の策定を主体とする調査分析（委員 12 名）</li> </ul>	
2005 年度予算	140,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： <a href="http://news-sv.aij.or.jp/jyoho/m050/">http://news-sv.aij.or.jp/jyoho/m050/</a>



項 目	自己評価
委員会開催数	6 回
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・ 研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パ ブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	<p>小委員会の発足に当たり、初年度として、内外の機関の活動状況分析ならびに情報交換、研究協力を目標にした。当初の目標を達成したと考える。</p> <p>小委員会として、3つのWGの活動調整を図ると共に、研究協力として、「建築設備運営委員会/設備設計図書標準化検討小委員会」との標準化における両小委員会の成果との整合性を図ることを議論し、次年度も継続することとなっている。</p> <p>各WGの活動を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分類体系・用語WG： <ol style="list-style-type: none"> <li>1 .建築標準分類体系(仮称 AIJ コード WD)の精緻化。2005 年度計画ほぼ完了。今後、公表を予定している。</li> <li>2 .JACIC 標準部分類体系コード小委員会との連携。AIJ 成果を提供し、2005.5 JCCS Ver.2.0 の中間報告を行った。</li> <li>3 . 設備設計図書標準化検討小委員会との懇談。今後協力していくことで合意</li> <li>4 .建築雑誌 4 月号に「今伝えたいビ ッス」欄に「CALS/EC 実現のための JCCS」を公表した。</li> </ol> </li> <li>・建築データモデルWG： <ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 異業種間のデータの授受について、事例をヒアリングした。</li> <li>2 . 設備 CAD データ交換フォーマットの調査と活用事例の報告を聞いた。 建築と設備データ連携、CADEWA EVOLUTION / 設備業務間データ</li> <li>3 . SIRCAD：構造解析 / 図面 / 積算業務データの連携の報告を聞いた。</li> </ol> </li> <li>・図面情報WG： <p>2005 年度は建築図面内容の分析のため、以下の海外図面情報のヒアリングを行い日本との比較検討を行なった</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 . 米軍設の設計受注形態、入札用設計図書、設計要領、調達システムの特徴</li> <li>2 . 欧州の設計図書のあり方(ドイツ、ハンガリーの事例)</li> <li>3 . シンガポールの設計図書のあり方</li> <li>4 . フィリッピンの入札書類について</li> </ol> </li> </ul>
委員会活動の問題点 ・課題	初年度計画としてWG単位の活動が多くを占めたが、WGで対象としているテーマ(体系/図面/モデル)の連携が課題になってきており、次年度は、拡大WGを企画して多くの人の参加を呼びかけ、更なるWG間連携を推進する。
その他	